

「スマートシティ実現で増幅するエリアの引力」事業の概要(岡崎市)

1

■ 事業のセールスポイント

- 「スマートシティ実現」が「まちなかウォーカブル推進」と「都市再生」の引力・道標となる。
- 地方再生モデル都市として行う公共投資(ソフト・ハード)に連動したスマート技術の着実な実装と進化
- 民間投資と連動してスマートシティ実現に資するソリューションの導入促進

■ 対象区域の概要

- 名称: 乙川リバーフロントエリア
- 面積: 157ha ○ 人口: 7,800人



■ 都市の課題

まちづくり進捗で公共投資が概成

コロナ禍で出足の鈍い
人流回復・民間投資の活発化

スマート技術や蓄積データの活用

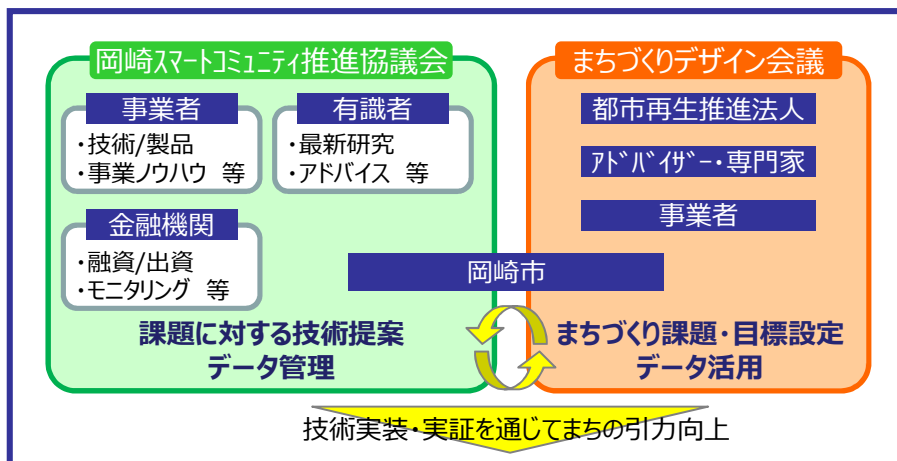
誘導促進
の引力

誘導方向性
の道標

■ 解決方法

- 引力 道標
- 快適・安全・集客データ スマート・低炭素・高質・高効率
- 3D-LiDARで群衆事故防止や密防止
 - AIシミュレーションで災害被害予測
 - 駐車場満空情報発信
 - 渋滞状況リアルタイム情報発信
 - AIカメラ人流情報発信で民間投資誘導
 - エネマネ低炭素電源供給
 - ウォーカブル補完のグリーンモビリティ

■ 運営体制



■ KPI(目標)

項目	KPI
シェアリングモビリティ年間利用回数 (2019年度19,000回)	3,000回 増加
民間再開発検討件数	累計3件
遊休不動産活用件数	累計30件
人流データとエリアマーケティングソフトの 連携を見据えた実験の増加	2件

達成年度はいずれも2025年

- センシング技術等で人流をはじめとする各種データを取得・利活用し、まちの安全性能・快適性能・環境性能を高め、まちなかウォーカブル推進により都市再生を加速させる。そのために、人流分析カメラ、3D-LiDAR、GPS(個人デバイス・シェアサイクル)、水位計、次世代モビリティなどの技術を、2025年までにエリア内各所で実証・実装する。
- 人流情報がさらなる人流を呼び、またこれにより民間の投資がさらなる投資を呼び込む持続可能な好循環を志向



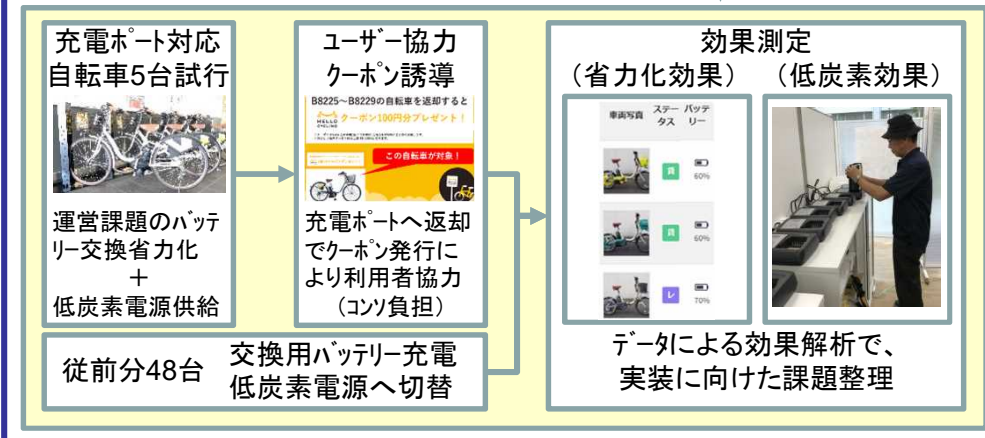
データサイエンスオートメーション型AIによる複合的なデータ分析

活用技術例：人流動線把握技術
Data取得機器：3D-LiDAR

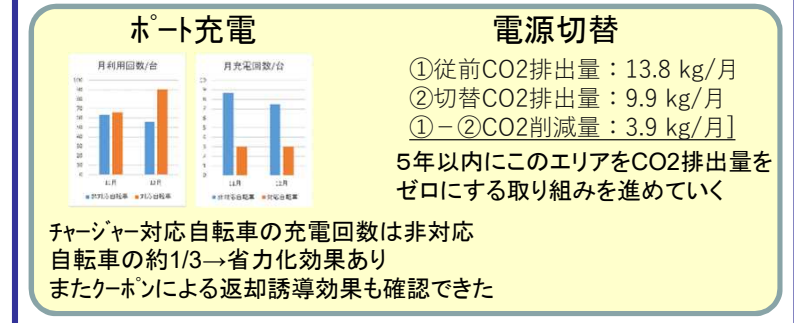
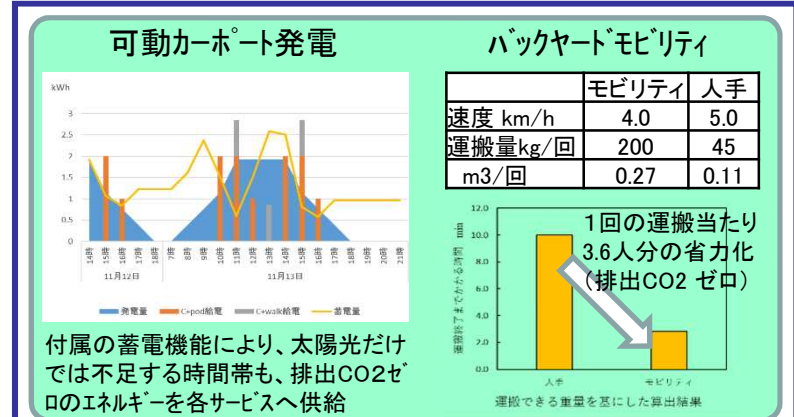
活用技術例：屋外通行人属性把握技術
Data取得機器：人流分析カメラ

スマートサービス×データ活用＝低炭素＋α：まちなか公共空間の民間活用が活発化する対象地区において、ロケーション種別ごとにエネルギー需給の最適化をきっかけに、多面的課題を解決する実証実験

■ 実証実験の内容



■ 実証実験で得られた成果・知見



今後の取組：低炭素をきっかけとする都市課題解決

4

カーボンニュートラルをきっかけとするスマートシティ実現に向けて、移動・効率性・人流（賑わい）などの視点から課題を整理した結果、さらなるユースケース構築により実装が可能な技術が多くを占めた。今後は、ユースケースの構築と合わせて、“スマートシティ×カーボンニュートラル×□□”で着実な実装を進めていく。

■ 実証実験で得られた課題

実証実験を通じた各データ解析による有効性等の検証により明らかとなった課題や取組みの方向性

可動カーポートは、イベント等での活用効果は高いものの都度の設置コストは割高となる。バックヤードモビリティと組み合わせて活用する場合、発電設備設置が困難な場所でも、仏などで進む路面型パネル整備が合理的。



EVモバイル電源活用は、その可動性から高い有効性が確認された。実装を加速させるためには、ユースケース拡張が課題。公用車・民間ナイトマーケット（月2回定期開催）貸出・シェアリングなどの用途と合わせて実装加速



ポート充電については、クーポン発行なしでもユーザー協力の範囲で運営者充電回数の減少効果が得られることが分かった。さらなるユーザー協力を得る周知と合わせ、導入台数を増加させていく。



モビリティ導入や渋滞緩和の取り組みにおいて、カーボンニュートラルは目的を共有する部分が多い。スマートシティ実現を加速させるため、この大きな社会的流れを活かしていきたい。

■ 今後の取組：スケジュール

	2022	2023	2024
路面型太陽光発電パネル	仮設・実証	歩道実装	
パーソナルグリーンモビリティ	渋滞対策 連携実証	公園等限定空間 実装	
EV公用車70台導入		実装	ナイトマーケット・シェアリング 実装
サイクルシェアポート充電		実装	
渋滞緩和	リアルタイム 渋滞緩和 実証	実装	